（１７）　リーフレタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	ＲＡＣコード	薬剤
1 斑点細菌病 *Xanthomonas axonopodis* pv. *vitians*	1.育苗は風当たりの少ないところで行う。 2.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 3.トンネル被覆は遅れないようにする。 4.凍霜害を避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ドイツボルドーA、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は薬害を生ずることがあるので炭酸カルシウム剤を加用する。 2.ドイツボルドーA、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は幼苗期や高温時に薬害を生じやすいので避ける。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		定植後から数回	M1 M1 24･M1 24･M1 -(生)	ドイツボルドーA キノンドーフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤 (生)マスタピース水和剤
2 腐敗病 *Pseudomonas cichorii* *P. marginalis* pv. *marginalis* *P. viridiflava*	1.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 2.連作を避ける。 3.育苗は風当たりの少ないところで行う。 4.トンネル被覆は遅れないようにする。 5.凍霜害を避ける。 6.発病株は早期に除去する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ドイツボルドーA、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は薬害を生ずることがあるので炭酸カルシウム剤を加用する。 2.ドイツボルドーA、カスミンボルドー、カッパーシン水和剤は幼苗期や高温時に薬害を生じやすいので避ける。 3.本病対象にジーファイン水和剤で防除を実施しているところでは、斑点細菌病の発生が少ない。 4.マスタピース水和剤は夏場は冷蔵庫保存（10℃以下）する。	定植時	P2	オリゼメート粒剤
		定植後から数回	U18 M1 M1 M1 24･M1 24･M1 NC･M1 -(生)	バリダシン液剤5 ドイツボルドーA キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤 (混)ジーファイン水和剤 (生)マスタピース水和剤
3 軟腐病 *Pectobacterium carotovorum*	1.排水を良好にする。 2.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 3.ヨトウムシ、ナメクジ等の害虫を防除する。 4.発病株は早期に抜き取り、埋没するか、処分する。	定植後から数回	U18 M1 M1 M1	バリダシン液剤5 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル ヨネポン水和剤
4 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.収穫残さは埋没する。 2.マルチを行う。 3.トンネル栽培では近紫外線除去フィルムを使用する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にアフェットフロアブル、ベジセイバーで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	7 7 7･M5	カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル (混)ベジセイバー
5 すそ枯病 *Rhizoctonia solani*	1.水稲の作付けは本病の発生を抑制する。 2.マルチを行い、土が株にかからないようにする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にベジセイバーで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	U18 7･M5	バリダシン液剤5 (混)ベジセイバー
6 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.アブラナ科野菜との連作は避ける。 2.マルチを行う。 3.発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取って処分する。 4.トンネル栽培では近紫外線除去フィルムを使用する。 5.夏期に湛水可能な圃地は、高温時に20日間以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病を対象にアフェットフロアブル、ベジセイバーで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	発病前から	7 7 11 19 7･M5	カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル スクレアフロアブル ポリオキシンＡＬ水溶剤 (混)ベジセイバー

リーフレタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 べと病 *Bremia lactucae*	1.マルチ栽培を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ダコニール1000、ベジセイバーを冬どり（年明けどり）栽培に使用する際には、育苗期までの使用に限る。 2.フォリオゴールドを冬どり（年明けどり）栽培に使用する際には、育苗期までの使用に限る。 3.本病対象にダコニール1000で防除を実施しているところでは、すそ枯病の発生が少ない。 4.本病を対象にダコニール1000、ベジセイバーで防除を実施しているところでは、白絹病の発生が少ない。	育苗期	M5 7･M5	ダコニール１０００ （混）ベジセイバー
		発生初期	M1 4･M5	ヨネポン水和剤 （混）フォリオゴールド
8 アブラムシ類 （モザイク病 CMV LMV）	1.苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 2.ＬＭＶは種子伝染するので、種子は健全なものを使用する。 3.発病株は早期に処分する。 4.シルバーポリマルチ、シルバーストライプマルチをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●定植時 1.本虫対象に防除を実施しているところでは、ヒメフタテンヨコバイの発生が少ない。 ●発生初期 1.アドマイヤーフロアブルを冬どり（年明けどり）栽培に使用する際には、収穫3週間前までに使用する。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	（混）ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植前日～定植時	4A 4A 28･4A	アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 （混）キックオフ顆粒水和剤
		定植時	4A 4A	アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		発生初期	3A 3A 3A 4A 4A 4A 4A 4A 9B 29 23･28	アグロスリン乳剤 アグロスリン水和剤 マブリック水和剤２０ アドマイヤーフロアブル モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 コルト顆粒水和剤 ウララＤＦ （混）ヨーバルターボフロアブル
9 ヒメフタテンヨコバイ （萎黄病 *Phytoplasma*）	1.苗床では防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 2.発病株は早期に処分する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
10 ヨトウムシ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●若齢幼虫期 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。	育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル５
		若齢幼虫期	5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 28 28 4E･28 23･28	スピノエース顆粒水和剤 トアロー水和剤ＣＴ バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 エスマルクＤＦ フローバックＤＦ エコマスターＢＴ チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル フェニックス顆粒水和剤 プレバソンフロアブル５ （混）フェニックスマストフロアブル （混）ヨーバルターボフロアブル

リーフレタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
11 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	育苗期後半～定植当日	28	ベリマークSC
		定植前日～定植時	28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		発生初期（若齢幼虫期）	5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			6	アニキ乳剤
			11A	バシレックス水和剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	サブリナフロアブル
			15	ノーモルト乳剤
			15	カスケード乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	プレバソンフロアブル5
			UN	プレオフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
12 シロイチモジヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場をよく見回り、若齢期に防除する。 2.薬剤感受性の低下が見られる地域があるので注意する。	発生初期（若齢幼虫期）	30	ブロフレアSC
13 オオタバコガ	1.幼虫は見つけしだい捕殺する。 2.苗床では飛び込み軽減のため、防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期（若齢幼虫期） 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので注意する。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ベリマークSC
		定植前日～定植時	28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		発生初期（若齢幼虫期）	5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナSC
			6	アファーム乳剤
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクDF
			11A	フローバックDF
			11A	エコマスターBT
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			15	カスケード乳剤
			22B	アクセルフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	プレバソンフロアブル5
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
14 ネキリムシ類	1.被害株周辺を軽く掘り、幼虫を見つけしだい捕殺する。 2.作付け前の圃場の除草処理を徹底する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キックオフ顆粒水和剤はカブラヤガにのみ登録がある。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		播種時または植付時	1B	カルホス粉剤
			1B	カルホス微粒剤F
		植付時	1B･1A	(混)ランダイヤ粒剤
		定植前日～定植時	28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		発生初期	22B	アクセルベイト

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

リーフレタス

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
15 ナモグリバエ	1.圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 2.苗床では、周囲に防虫ネット（1㎜目合以下）の障壁を設ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●発生初期 1.本虫対象にパダンＳＧ水溶剤で防除を実施しているところでは、アブラムシ類の発生が少ない。 2.パダンＳＧ水溶剤は、冬どり（年明けどり）栽培には使用しない。	播種覆土後～育苗期後半	28･4A	(混)ミネクトデュオ粒剤
		育苗期後半	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	プレバソンフロアブル5
			28	ベリマークＳＣ
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植前日～定植時	4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28･4A	(混)キックオフ顆粒水和剤
		定植前まで	5	スピノエース顆粒水和剤
		定植時	4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
		発生初期	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			5	ディアナＳＣ
			6	アファーム乳剤
			14	パダンＳＧ水溶剤
			28	プレバソンフロアブル5
			UN	プレオフロアブル
			4E･28	(混)フェニックスマストフロアブル
			23･28	(混)ヨーバルターボフロアブル
16 ナメクジ類	1.除草や残さ処理などにより、多湿で有機物の多い圃場環境を避ける。 2.パダンＳＧ水溶剤は、冬どり（年明けどり）栽培には使用しない。	発生初期	14	パダンＳＧ水溶剤